

UNIVERSAL PASSPORT RX の e-learning 機能を活用した授業について ～大学英語教育の事例

西村 厚子

本稿は2020年2月5日に本学にて開催された「次世代 kyonet 事例発表会」(共立女子大学・共立女子短期大学 kyonet 導入・推進ワーキングチーム)での発表内容に基づいて書かれた。2016年度より ICT 設備を使って行っていた学修活動を、2019年度新たに導入された本学のネットワークシステム kyonet RX に置き換えて行うことを試みた。kyonet RX とは本学での通称で、日本システム技術株式会社(JAST)が開発したポータルシステム“UNIVERSAL PASSPORT RX”をパッケージ導入したものである。学外の方にも判り易いように、本稿タイトルには UNIVERSAL PASSPORT RX と記載した。また、本稿の先行研究である「ICT 設備を活用したアクティブ・ラーニング」については、2018年の本学紀要での報告をご参照頂きたい。

2016年度から行っていた ICT 設備を活用した授業は、電子黒板やタブレット端末を使用できる校舎や教室が限定されており、操作にある程度の知識と経験が必要とされるため、限られた教員の授業でしか活用されなかった経緯がある。今回上記の新システムが導入されたことにより、電子黒板のある ICT 教室でしか行えなかった授業活動の多くが、一般の講義室を含む全ての教室で行うことが可能になり、全教員の全授業にて全学生が利用可能になった。また、ちょうどシステム導入から1年経とうとしている時にコロナ禍に見舞われ、2020年度前期授業全てを急遽オンライン化するという未曾有の事態に陥り、kyonet RX の様々な機能を全面的に活用せざるを得ない状況に本学の全教員が直面したのである。新システム導入が1年遅れていたら、より大きな混乱が生じていたことだろう。筆者が非常勤講師を務める大規模総合大学では、2020年度から新システムを導入した途端にコロナ禍に見舞われ、担当部署が一時期全教職員からの問い合わせに忙殺されている様子であった。

本稿の基となる事例発表が行われた2020年2月時点では、まだそれほど国内のコロナに対する危機感は強くなく、FD活動の一環として、通常通りに本学の専任・非常勤教員を対象としたセミナーが行われ、多数の先生方にお集まりいただいた。筆者を含めた「次世代 kyonet ワーキングチーム」の委員の教員が中心となって事例発表を行い、本学の新システ

ムが各学部・学科の授業でどのように活用できるかということについて具体例を紹介した。筆者の発表では語学の授業での応用例について紹介したので、以下に報告する。

2019 年度に筆者が本学にて担当した科目は「英語Ⅱ（中級）」（全学共通の Reading & Writing）2 クラス（16 名 / 34 名）、「英語学概論」（短期大学英語コース 1 年生 21 名）「英米文学演習（アメリカ現代詩）」（短期大学英語コース 2 年生 17 名・前期）、「英米文学研究（アメリカ小説と映画）」（短期大学英語コース 2 年生 24 名・後期）、「卒業セミナー（異文化理解・国際交流）」（短期大学英語コース 2 年生 18 名）、「Listening（初級）」（短期大学英語コース 1 年生：前期 15 名／後期 16 名）、以上 6 科目である。CALL 教室を使用した「Listening（初級）」を含む 7 クラスで新システム kyonet RX のクラスプロフィール機能とアンケート作成機能を試用した。導入初年度に担当する全授業でこのシステムを使用した教員はおそらく筆者だけではないかと推測する。

kyonet RX クラスプロフィール機能のうち、2019 年度の授業で使用したのは、「課題管理」「テスト管理」「授業資料管理」「クリッカー管理」「授業 Q&A 回答」「学習状況」である。「コース管理」「プロジェクト管理」は 2020 年度になってから上記以外の授業で使用を開始したが、本稿では触れないことにする。また、「学習リソース管理」については、担当授業での活用法をまだ見出せていないので使用していない。「アンケート作成」は「クラスプロフィール」のカテゴリーに含まれない機能であるが、専門科目やゼミで有用性が高いので併せて紹介する。

kyonet RX 活用する利点をまとめると、以下の通りである：

- ・資料配布を効率化できる
- ・資料提示や資料解説がより効果的に行える
- ・同時進行で履修者全員が学習活動に参加できるため、実質活動参加時間が増加する
- ・履修者全員の活動状況をリアルタイムで可視化できる
- ・テスト、アンケート、クリッカーなどの機能を併用することによって、授業の学修活動に抑揚や減り張りをつけて、履修者の緊張感や意欲を保つことができる
- ・時と場所にかかわらず、授業や宿題の内容をオンライン上で履修者が閲覧・参加できるため、様々な理由で教室に来られない学生に対して柔軟に対応できる
- ・演習・講義のどちらの授業形態にも利用可能である
- ・反復練習の必要な語学の基礎演習、文学・言語学など深い考察が必要とされる専門科目、ディスカッションやプレゼンテーションなどアクティブ・ラーニング型のグループワークが多いゼミなど、異なるタイプのコンテンツや授業活動に応用可能で、様々な種類の科目での活用が期待できる
- ・新システムに合わせて授業内容を変える必要はなく、これまでの授業内容をそのまま活か

して利用できる

- ・成績評価の締め切り前に休日出勤したり、大量の重たいレポート答案を持ち帰らなくても、自宅PCを利用してオンライン上で採点できる

上記のポイントを科目別に具体的な学修活動で見るとより明確になるので、まず全学共通科目の「英語Ⅱ」（2020年度からは「英語B」）での活用例を紹介する。授業の進め方としては、まず前回レッスン内容をkyonet「テスト管理」機能を使って約10分間で復習する。テスト設定時に制限時間を設定できるので、回答を始めた時間が異なっても制限時間が来た時点で自動的に終了させられる。また、学生のテスト画面上部に残り時間が表示されるので、学生は残り時間を確認しながら受験できる。その他、設問をランダム表示に設定することで、受験者ごとに設問の表示順を変えることができるので、隣り合う学生同士のPC画面が近く、他の学生の回答が意図せずして見えてしまうような場合でも、不正行為を防ぐことができる。もう一つの利点としては、試験終了時に即座に自動採点が完了するので、即日授業時間内に平均点や正答率を履修者に周知できる。紙ベースの採点では答案返却が翌週以降になるが、kyonet自動採点を利用することによって、より迅速で正確な採点が実現すると共に、全員の採点結果をエクセルに一括出力したり、コピー機能を使って他のクラスや次年度の授業で再度使用することも可能なので、入力・印刷・採点などの作業を大幅に効率化できる。設問が90問以上で受験者が100名以上の場合でも同様に瞬時に採点は完了する。採点結果を公開設定にすることにより、各受験者が自分の得点や間違えた設問やその正答・解説もkyonet上で確認できる。更に、履修者は自分の得点の推移をkyonetクラスプロファイルの「学習状況」で参照できるので、再試験対象者などが早期に状況を把握して自主的に準備を始められることも利点の一つである。「英語Ⅱ」では、以下の画面を毎試験終了後に履修者に提示し、平均点や各設問の正答率を周知した。

個人情報 ▼ 時間割 ▼ 履修 ▼ 出欠管理 ▼ 成績 ▼ シラバス ▼ 掲示 ▼ アンケート・Q&A ▼ 学生支援 ▼ 就職 ▼ 教室予約 ▼ 研究業績 ▼ 共通設定 ▼

11310 英語Ⅱ_10 (L3)  次の授業 ▶

TOP 課題管理 テスト管理 授業資料管理 クリッカー管理 授業Q & A 回答 プロジェクト管理 コース管理 学習リソース管理 学習一括コピー 学習状況

アンケート作成 アンケート回答 掲示登録 履修者名簿 授業評価結果照会 成績入力  シラバス登録

テスト一覧 ▶ テスト解答統計

テスト管理 [Jga006]

2019年度後期

月曜日
4限
英語Ⅱ_10 (L3), (11310) 
火曜日
水曜日
木曜日
金曜日
土曜日

英語Ⅱ Unit 12 (2019/10/14(月) 15:10~2019/10/14(月) 15:35)
全体平均点数: 71.9点 全体平均解答時間: 9分 7秒 受験者数: 26/34名

番号	問題	正解率	問題配点	平均点数	最大点数	最低点数
1	次の文の () の中に入	53.8%	25点	22.5点	25点	15点
2	Japanese law (①) to (②	61.5%	10点	7.3点	10点	0点
3	Graduate business students are	53.8%	10点	6.5点	10点	0点
4	Each (①) a man (②) a	57.7%	10点	6.9点	10点	0点
5	The (①) good we (②),	76.9%	15点	13.1点	15点	5点
6	(①), there are many peopl	34.6%	15点	7.5点	15点	0点
7	All I can do is (①) to th	23.1%	15点	8.1点	15点	0点

(3)

テスト終了後は、履修者がクリッカーで練習問題に回答する。クリッカーの最大の利点は、全ての授業活動に全員が同時に参加できることである。以前、口頭で一人ずつ回答を発表させていた時は、発表者以外はただ聞いているだけなので、退屈して寝てしまう者もいたが、現在は各設問に全員がクリッカー上で毎回回答を送信するので、常に全員の緊張感を保ちながら学修活動に参加させることができる。また、回答を締め切った後に全員の回答をkyonet上で共有できるので、履修者は他の人の意見や回答を参考にすることができる。英語Ⅱの場合、スクリーンにクリッカー画面を映して教員が各回答を講評したり、優れた回答を模範解答として紹介した。その場合、状況に応じて記名・匿名の設定を選ぶことができる。筆者の授業では、ポイント対象の設問は記名式にし、それ以外の設問は履修者の心理的負担を軽減するために匿名可としている。記名の場合は各学生の学修状況をリアルタイムに把握することで、サポートの必要な学生に適宜指導を補うことができる。匿名の場合でも、全体の正答率は概観できるので、クラスの理解度を確認しながら授業を進められる。また、英作文の問題では、昔のように学生が一人ずつ前に出て白板に回答を書く方法だと時間がかかるが、クリッカーの場合、予習で作成した回答をワード等で保存しておけば、クリッカー画面にコピー＆ペーストするだけで全員が一斉に回答を送信でき、回答時間を大幅に節約できる。オンラインタイマーを併用すれば、更に無駄なく効率的に授業活動を進められる。学生と教員が過去の学修内容をいつでも参照できるので復習にも活用しやすい。欠席した授業についても照会画面で他の履修者の回答状況を参考にできるが、教員アカウントで特定の項目を削除すれば学生側からの参照は不可になる。過去の回答状況は「学習状況」ページに回答数／問題数が自動的に集計されるので、筆者の場合は平常点として成績評価に反映している。以下はクリッカーで送信された英作文の回答である。

匿名	回答内容
2020/01/06(月) 15:28	I am longing for summer vacation when go out on a date with her in my hometown. Don't to loss,something like this one's head. I tend to get excited over trifles,I always keep it in mind.
匿名	I'm going for
2020/01/06(月) 15:28	
ml	I am longing for go out on a date with my girlfriend in my hometown. Don't lost one's head something like this. I tend to get excited with over trifles,so I keep that in mine constantly.
2020/01/06(月) 15:28	
匿名	I'm longing for summer vacation going out on a date with my girlfriend at my hometown. Don't lose your head something like this. So I tend to get excited over trifles, I always keep that in mind.
2020/01/06(月) 15:28	
匿名	I am looking for summer vacation to go out a date with girlfriend at my hometown. Don't lose your head to something like this. I tend to got excited over trifles , I always keep it in mind.
2020/01/06(月) 15:28	
匿名	I am longing for summer vacation i go out in a date with girl friend at my home town. Don't lost your head something like this. I tend
2020/01/06(月) 15:28	
匿名	I am longing for go out on a date with my girl friend at summer vacation my hometown. Don't lose something like this one's head. I over trifles get exciting tend to it so keep it in mind.
2020/01/06(月) 15:28	

共立女子大学・共立女子短期大学 〒101-8437 東京都千代田区一ツ橋2-2-1 サイトマップ
Copyright 2017 Japan System Techniques Co. Ltd. All rights reserved

次に、専門科目の例として「英米文学研究」を取り上げる。この授業では、「アンケート作成」機能を使って、始業時刻までに課題を提出させている。授業では集計結果参照画面をスクリーンに映して講評と補足解説を 30 分程度加えている。この機能は本来授業用ではないので、クラスプロファイルのカテゴリーには含まれておらず、現時点では専任教員のアカウントのみ利用可能なのだが、履修者からも評判が良いので活用例を紹介する。締め切りを設定することによって始業時まで確実に宿題に取り組ませることができる点は「課題管理」と共通するが、設問ごとに「入力必須」に設定できるのはアンケート機能だけである。全問を「入力必須」に設定することによって、面倒な設問を飛ばすことなく全ての設問に回答させることができる。

また、公開設定にすることで、学生の画面でも全員の回答を参照できる点が学生に好評だった。授業時に全員の回答を照会画面で提示できるので、全体の傾向を見ながら個別の回答に対する講評もできる。また、回答公開を締め切り後に設定すれば、他の学生の回答をコピーするなどの不正行為を防止できる。回答照会ページでは、学生の氏名の表示・非表示を切り替えられるので、氏名の表示に心理的負担を感じる学生がいる場合は、授業でスクリーンに映す際に学生氏名を非表示設定にすれば良い。また、クリッカー同様に、授業に欠席した者を含め、学生自身がいつでも kyonet 上で集計結果画面を参照し、復習等に活用することができる。教員が成績評価をつける際には、「集計結果に回答者氏名を表示」にチェックを入れれば、回答者を確認しながら採点できる。各設問に対して全員の回答が学籍番号順に並べられているので効率的に採点できる。以下の画像はアンケート集計結果参照画面の一例で、実際の画面では右側に学生氏名が表示される。尚、筆者の授業では記述回答のみを使用することが多いが、選択式を併用するとグラフで集計結果が表示される。

kyonet.kyoritsu-wu.ac.jp / user/vip/9d/fac0033/fac00302_v.html

"we are at the edge, at the rim"という比喩はどのようなことを表していると思いますか。"we"の置かれている社会的状況を踏まえて考えてみましょう。

回答内容	
チカーノと同性愛者の狭間にいる人たちは、縁の中側には入らない、	18A501
色目で見られて肩身が狭い思いをしているということ	18A509
作者のような人々は社会の中でのけ者にされている	18A510
必要とされていない。	18A514
同性愛者が社会から遠ざけられた存在であること。	18A516
そのLGBT的な人	18A519
縁がない世界にいる、居場所がない	18A522
we（同性愛者のラテン人）は人々に理解されない、社会において居場所がないはぐれものである。	18A524
クイアたちは社会的に受け入れられてなく、差別を受けているということ。	18A528
メキシコ系アメリカ人の同性愛者は、世界の中でも端っこにいる、差別的なことを受けている	18A529

14件 (1 / 2) 1 2 10

"at the border of a new world"とはどのようなことを表していると思いますか。文脈を踏まえた考察を論じて下さい。

回答内容	
自分の知らない場所	18A501 販
差別や偏見が全くない世界	18A509 小

アンケート集計結果参照画面を参照しながら講評と補足解説を加えた後は、音読ペアワークや映像資料視聴を 20 分程度行い、資料内容に関する設問について kyonet クリッカーで全員が回答する。英語Ⅱと同様に、一人の発表者だけでなく全員が活動に参加できるので、各学生の実働学修時間が増える。また、クリッカーは、場所を選ばずオンライン上で学修活動に参加できるので、感染症等で登校が禁じられている場合でもリアルタイムで授業活動に参加することが可能である。筆者の授業では、学生の回答送信後に結果照会画面で全員の回答を紹介しながら、講評や補足解説を 10 分程度加えている。授業の最後に翌週の課題を kyonet アンケートのプレビュー画面を見せながら説明し、終業時刻まで学生が入力作業を行い、残りの設問が次回授業始業時までの宿題となる。資料データをアンケート設定画面に添付できるので、印刷が不要となり、効率的である。ワードでなく PDF で添付すれば、学生のスマートフォンでも参照できる。以下の画像はクリッカーの回答照会画面の一例である。実際の画面では左側に学生氏名欄が表示されている。

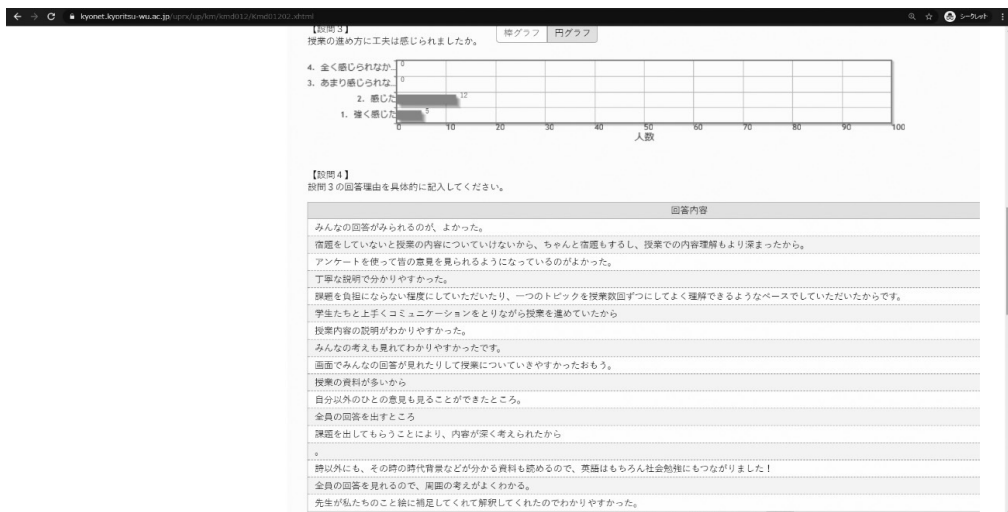
【葉香】 '15(水) 14:44	原作の方が好き。映画のラストの方が万人受けはするだろうし、感動するのも映画だとは思うけど、原作のストの方が驚かされるしこちらの方が話題性はあると思った。あとは、原作のラストの方が作者の本当に伝えたいことがあると思うから。
【葉】 '15(水) 14:43	映画のほうがよかったです。命の大切さと家族愛がすごく伝わってきて感動しました。
【葉】 '15(水) 14:42	映画の方がハッピーエンドになるから。
【彩】 '15(水) 14:42	The movie. ドナーとして生まれた子が自分の意思を大事にできているところがいいと思った。みんながそれぞれ納得できる感じであったから。
【玲奈】 '15(水) 14:41	映画。姉妹のどちらかが死んでしまうのは悲しいけれど、ケイトの人間性や思いが一番伝わってきたのは映画だと思うから。
【渚】 '15(水) 14:40	映画。ケイトを助けるために生まれてきたようなアナが自分自身のために生きていくのがとても好きです。
【羽】 '15(水) 14:39	小説版も好きであったが、映画の方が好きです。特に映画のエンディングは印象的で、ケイトが亡くなってみんな家族が、それぞれ人生を改めていく姿に非常に感動しました。
【帆】 '15(水) 14:39	movie 原作も映画もどちらかは亡くなるが映画のほうが残された家族が平和

ツ橋2-2-1

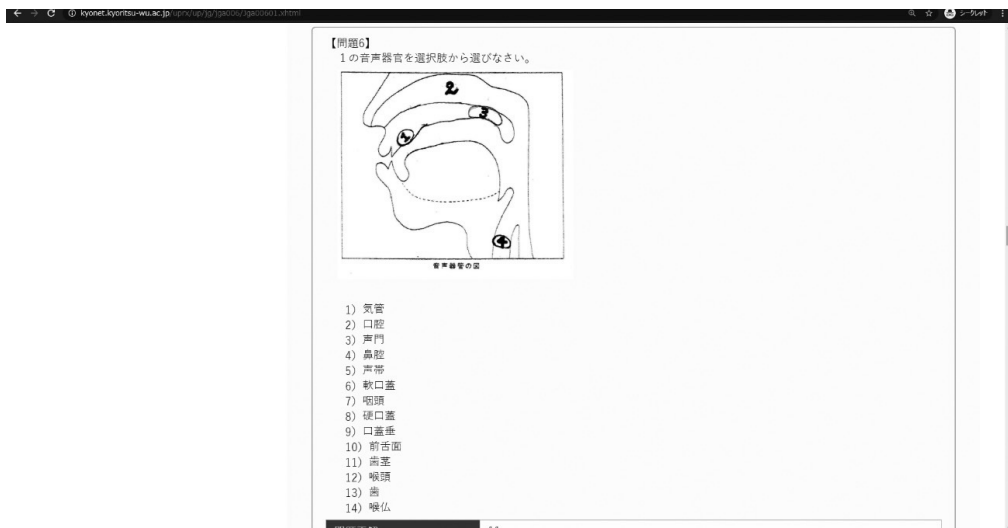
Copyright 2017 Japan System Techniques Co., Ltd. All rights reserved

サイトマップ

以下は上記授業に対する学生の評価である。アンケート機能で全員の回答を共有し、画面を見ながら解説を加える進め方は概ね肯定的に受け止められており、授業の進め方について全員が「工夫を感じた」と回答している。



次に英語学概論での試用を紹介する。この授業でも、まず kyonet アンケート機能を使って始業時までに課題を提出させ、kyonet テスト機能で前章の復習試験を実施し、その後アンケート集計結果参照画面を見せながら講評・補足解説を行う。テスト機能では、以下の画像のように、設問中に図を表示できる。この画像はモノクロであるが、カラー図の挿入も可能である。



アンケート機能では図で回答を入力させることができないので、樹形図などに関する設問ではクリッカーを活用している。まず宿題として学生が紙面に図を描き、スマートフォンで図を撮影する。撮影した図のデータを教室に持参の上、授業時にクリッカー回答欄に添付送付することにより、全員の回答がクリッカー結果照会画面に表示されるので、教員が各回答について画面上で講評及び補足解説を加える。以下は樹形図の問題に対する学生の回答例である。実際の画面では左側に学生氏名が表示されているが、匿名設定にすることもできる。

03(木) 11:51

03(木) 11:51

03(木) 11:51

ツ橋2-2-1

Copyright 2017 Japan System Techniques Co., Ltd. All rights reserved

サイトマップ

授業の最後に翌週までの提出課題をアンケートプレビュー画面で説明の上、終業時刻まで学生が課題を入力し、残りの設問が次回授業始業時までの宿題となるのは「英米文学研究」と同じ方式である。

最後に「卒業セミナー」での活用法を紹介する。この授業では、「英語Ⅱ」と同様に、学生がテキストの練習問題を「クリッカー管理」で回答し、ポイントとして記録したものを平常点として評価に組み入れている。その他、留学生との交流授業やゲストスピーチでは、課題用の資料を「授業資料管理」で公開し、「アンケート作成」機能で事前に課題として海外ゲストや留学生へ英語の質問を提出させ、交流実施後の授業で所感や反省点を「クリッカー

管理」で共有するという形で進めている。クリッカーは、初回授業での自己紹介メッセージや、研究発表会の後の反省点や感想、あるいは最終授業で1年間の総括を共有する際にも有効である。以下の画像は「卒業セミナー」の最終授業で1年間の総括と卒業後の展望をクリッカーを使ってクラス全体で共有したものである。実際の画面では左側に学生氏名が表示される。



2019年度の筆者の授業における kyonet RX (UNIVERSAL PASSPORT RX) の実践例は以上である。今後、多様な事例を共有し、より効果的な活用方法を更に多くの教員が実践することによって、学園全体として授業活動の効果や効率が上げることができると考える。本稿では論じなかった「コース管理」機能の活用を加えることによって、より体系的に各学生の学修状況を把握・管理しながら指導を行っていきたい。

筆者が新システム導入と同時に活用し始めた理由の一つは、限られた時間の中で仕事の質・能率・効率を上げる必要に迫られたことである。学科の専任教員数が減少する一方で、入試や広報など、学期中にこなさなければならない業務の種類は増え続け、従来のやり方を続けていては、研究活動や学生指導に十分な時間を作ることができない。このような状況に置かれている教員はおそらく他大学でも多くいると推測する。kyonetの様々な機能を活用することで、採点締め切り前に子供を置いて休日出勤しなくても自宅ですべてレポートの

採点等ができ、以前は膨大な時間と労力がかかっていた単語テストが一瞬で正確に自動採点できるようになり、より多くの時間を学生指導や教案改善等に使えるようになった。特に、私を含め、秒単位で時間に追われるワーキングマザーにとって kyonet RX の様々な機能は心強い味方である。子育てやコロナ禍の感染症予防に限らず、これからの社会では、家族の介護・看護、体調不良や病気の治療など、様々な事情に合わせて在宅勤務の実現がますます必要になることが推測される。女性の社会的自立を掲げる女子大として、介護離職やマミートラックをなくし、男女共同参画社会において働き方改革を実現していく上でも、今後一層 kyonet の諸機能を活用していきたい。

2020 年 9 月現在、新型コロナウイルスはいまだに世界各地で猛威を振るっているが、2019 年度の kyonet RX 導入時にはおそらく誰もコロナ禍を予想しなかったであろう。2020 年度前期は、しかしながら、コロナ休校とオンデマンド授業実施に伴って、全教員が何らかの形で kyonet RX クラスプロファイルを利用せざるを得ず、筆者にも複数の非常勤講師の先生方から問い合わせや相談が寄せられた。多くの教員が慣れない操作に戸惑いを感じたと思われるが、ピンチをチャンスととらえ、今まで使用したことのない機能を試すことで、授業活動の幅が一層広げる機会になることを願う。本学に続いて UNIVERSAL PASSPORT RX を導入した他校の先生方にも本稿での使用例が僅かでも参考になれば幸いである。また、kyonet の機能を最大限に活用することにより、授業評価アンケートにて 2 年連続で学長賞に選出されたことは、このシステムの有用性を示す一助となるのではないかと。

他校に先駆けて本学が初めて上記システムを導入し、筆者の授業であらゆる機能を実験的に試用したことから、必然的に使用の途中で様々なシステム障害に直面し、毎週のように全学教育推進センターに駆け込み、ICT 設備を活用したアクティブ・ラーニングの時から引き続き本学職員の岡本氏に大変お世話になった。この場を借りて再び感謝の意をお伝えしたい。